

輝いて明日へ

誰にも優しい
地域社会をつくります

2025. 1. 17

社会福祉法人 ボワ・すみれ福祉会
理事長 田部井 眞

いつ起きるかわからない災害 ～大地震～

「備えあれば憂いなし」は、前もって準備していれば心配する必要はないという意味です。では、何を想定して、どのような準備をしていけば安心が得られるのか。

個別避難計画の作成が進められています。避難計画とは、避難経路を予め決めておき、災害時に迅速に避難しましょうということです。大地震を想定すると、地震がおさまりに発災時に居た場所から避難場所まで、どの経路で避難するのか、自宅避難を選択するのかになると思います。

何とか大地震では命を取り留めました。余震の心配をしながら、命をつなぐ生活をどのように組み立てていくのか。予め備えていけば、あまり心配しないで過ごすことができるのでしょうか。発災後の状況を誰が正確に予想することができるのでしょうか。

生き延びた後の「生活計画」

避難生活のために必要な、障がい特性に合わせた配慮を誰がするのかわかりません。その時の状況次第です。

具体的にどのような配慮が必要なのか、本人自身が伝えることができないことを想定し、生活計画をしっかり作成しておくことは、避難計画と同様に重要なことだと思います。生活計画に生活に必要な障がい特性に合わせた配慮をわかりやすく記載しておくことが重要です。どのような環境が苦手なのか、食事での配慮、就寝での配慮など様々です。配慮する内容が分ればできる限り安心できる環境を用意することはできるかもしれません。家族でなくても。

必要な情報を QR コードなどにまとめておくことはできないでしょうか。紙で持ち歩くのは、現実的ではないですね。クラウドでの情報管理も費用負担や災害後にネット環境が復旧するまでの時間もわかりません。いくつかの情報を別々に QR コードに分けて携帯していればスマホさえあればだれでも確認できます。ネット環境に依存しない情報の保存はとても有効ではないでしょうか。

誰もが生きるだけで大変な大地震後の生活です。自分自身で生きていくことがより難しい方への配慮が、どう伝えるとできるだけ理解され提供できるのかを、機会あるごとに考え前もって準備をしていきましょう。



新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

さて、年末にはインフルエンザが猛威を振るい、ボワ・すみれ福祉関係者にも多くの発症者が見られましたが、大事に至らず安心しています。まだまだ寒い日が続きますが、体調には気を付けていただければと思います。

2025年度、法人本部としては、花の郷の屋上防水工事、ボワ・フルール廃止の手続き及び有効活用の準備等々、計画的に補助金を申請しながら進めていきたいと考えています。

花の郷は設立から20年が経過し、屋上の防水加工の劣化や壁面のクラックが目立ってきています。ご利用者が安全安心に施設利用できるように大規模修繕を今後実施していきます。2024年度に東京都の補助金の申請を行いました。今後申請が通れば2025年7月ごろから着工する予定となっています。

ボワ・フルールについては、現在休止中となっていますが、支援学校の分散化や町田市内の放課後等デイサービス事業所の充実化に伴い、一定の役割を果たしたと判断し、2024年3月31日をもって廃止の手続きを年明けから進めていきます。廃止後の施設の有効活用として、地域の福祉団体等に建物を賃貸することができるかどうか、まちづくり公社や関係各所と現在調整を行っているところになります。そのほかにも解決していかなければならないことが多くありますが、ひとつずつ丁寧にクリアしていきたいと考えています。

2025年もご利用者が安全安心に施設を利用し充実した日々を過ごせるように、法人本部としても努力をしていきたいと考えています。 (統括部長 成澤 勲)



計画相談支援かけはし



「かけはしの一年を振り返って」

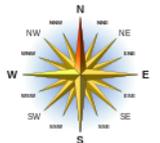
相談支援事業の一年間の営みを振り返った時、今年一番のトピックとして成年後見制度が挙げられます。

私が担当する方で今年お二人成年後見制度を利用された方がいらっしゃいました。ご存じの通り、成年後見制度とは「判断能力が低下した高齢者、知的障がい者、精神障がい者などの方の財産管理や契約を補助したり代理する人を選ぶことで、本人を法的に支援する制度(町田市社会福祉協議会HPより)」であり、物事の判断等が難しくなった方の権利擁護の仕組みとしては欠かせない制度です。

制度を利用するという事は、これまで当たり前のように我が子の面倒を看てきた親等の保護者が高齢化と共にそれが難しくなってきたということであり、近年、身近にそのような状況にある方達が間違いなく増えてきていることを実感します。

12月に入ってから、もう一人制度の利用を社会福祉協議会に依頼しましたが、制度利用の適否を検討する「町田市権利擁護支援検討委員会(弁護士や司法書士、社会福祉士等で構成)」での議論の結果、時期尚早と判断され利用には至りませんでした。その趣意は、成年後見制度は判断に困難を有する方の権利を守る上で欠かせない制度である一方、当事者の持つ権利を場合によっては奪ってしまう側面があること。現在の成年後見制度は一度利用を開始したら簡単に取り下げられないことになっており、その方の場合は制度を利用する前にすべきことがまだ残されているのではないかと指摘でした。私も経過を辿りながら色々と考えて提案したつもりでしたが、立場や考え方の異なる方達の意見から多くのことを気づかせてもらいました。

年末になって大きな学びをいただきましたので、その学びを相談支援の場において皆様にお返ししていければと思います。 (畠山 史郎)





花の家まつり



2024年10月19日土曜日、花の家まつりが6年ぶりに開催されました。2018年から昨年まで、気候やコロナウイルスの影響でお祭りが中止となり、ご利用者、職員共にとても残念な思いでしたが、その分、2024年の花の家まつりは関係者、来客者一同、とても素敵なお祭りとなりました。

今年の花の家まつりは10月らしくらぬ暑さで、日中は夏日近くまで気温が上昇、さらに「町田遊星」さんのエイサー、町田のアイドル「まちだガールズクワイア」さん、「きらり」さんの太鼓演奏、「キングフィッシャーズ」さんのチアリーディングがステージを盛り上げてくれ、来客者やご利用者共々、熱気が充満するお祭りとなりました。

エイサー、太鼓演奏では、ステージ上で活気あふれる演奏を披露して頂き、ご利用者も響き渡る演奏に対して、驚きの表情や身振り手振りで盛り上がる様子が窺えました。町田ガールズクワイアさんのステージでは、アイドルという名の通り、とってもノリノリで萌える歌とダンスを披露して頂き、ご利用者や来場者がその場で踊り出すなど、会場全体が楽しく明るい雰囲気となりました。キングフィッシャーズさんは、かわいい子供たちのチアリーディングを披露。子供たちのご家族とともにご利用者も笑顔でほっこりとなり、そこに居る誰もが暖かい気持ちになることができました。

ステージ会場以外では、焼きそばや豚丼などのキッチンカー、パン販売や野菜販売、フランクフルトやポテト、バザーなど色とりどりの模擬店が出店。ご利用者も来客者も職員も大満足といった様子でした。

今年、久しぶりに開催できた花の家まつりですが、暑さや駐車場の管理など多くの反省点もありました。ただ、無事に開催でき、多くの人の笑顔が集まってくれたのは関係各所、皆様のご協力があったからこそでした。本当にありがとうございました。来年も同様に笑顔溢れる花の家まつりが開催できるよう、皆様のご協力、よろしくお願いいたします。（齋藤 雅信）



2024年度 拡大外出

夏の暑さが和らぎ行楽シーズンとなった9月～11月の間に、花の家では5年ぶりに拡大外出を行いました。各グループ様々な企画を立て、「江の島水族館」「八景島シーパラダイス」「山梨の勝沼でぶどう狩り」「伊豆のめんたいパーク」「沼津港で観光汽船乗船」「サンシャイン水族館 展望パーク」「ムーミンパーク」へ行きました。5年ぶりの拡大外出ということもあり、ご利用者だけでなく職員も当日を迎えるのを今や遅しと待っていました。拡大外出に参加したご利用者皆さん、それぞれの行き先で「ほうとう」「海鮮丼」「炭火焼ハンバーグ」「ビュッフェ」「ホテルでのコース料理」などを召し上がり嬉しそうでした。

職員としても5年ぶりに行え、ご利用者の満足そうな表情が見られて感慨深いものがありました。また、今回拡大外出の費用に関して、家族会から寄付をいただきました。各ご家庭への費用負担が減り、大変有難いお申し出となりましたことを、この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。（宮本 翔）



クリスマス会

オープンカーとバイクに乗って颯爽と現れたサンタクロース集団に、思わず声をあげるご利用者のみなさん。12月25日クリスマス当日、今年もイオン相模原店様のご協力の下「バイクサンタ隊」が花の家を訪れました。

リーダーのサンタさんが「みなさんに会えて嬉しいです!」と叫ぶとご利用者も拍手と歓声でこれに応えます。いつもの駐車場が一瞬にしてクリスマスムード一色に染まります。

感染症を考慮して当初予定されていた「クリスマス会」が中止になった事もあり、ご利用者の歓声は例年よりも賑やかなものとなりました。その後もあちらこちらで興奮冷めやらぬご利用者とサンタさんとの間で記念撮影会が始まりました。この日は密な状況を避けるために、入退の順路を分離し大きく3つのグループに分けてサンタとの交流を楽しみましたが、自分たちの順番を自動ドア越しに待っているご利用者も表情で「早く会いたい!」と支援者にアピールされている様子でした。プレゼントを渡されて笑顔全開のご利用者の方のみなさん、でも一番のクリスマスプレゼントは多くのサンタクロースと一緒に過ごした素晴らしい時間だったのは言うまでもありません。

(大橋 正樹)



就労継続支援B型 クッカ広場



クッカ広場リサイクル店舗では、12月最後に半額セールを開催し、新年に向け店舗の清掃や商品の入れ替えを行いました。

リサイクル店舗では、ご来店の皆様楽しんで頂けるよう様々な企画をご用意しております。

毎週水曜日のポイント2倍デーに加えて、気まぐれ半額セールや詰め放題セールなど、「来店してのお楽しみ♪」なイベントも開催しています。

クッカー同皆様のご来店を心よりお待ちしております!



12月初め恒例の小山田桜台の花壇植付けに行ってきました。

ステキな花壇に仕上がるように、ご利用者と職員の力を合わせて頑張って植え付けを行いました。

小山田桜台花壇は忠生スポーツ公園の近くにあります、最近では貸出し自転車なども置かれ、地元の方のお散歩コースになっています。

お近くにお寄りの際にはクッカ特製冬花壇を是非ご覧になってください!

(藤見 俊輔)





訪問美容



今年花の郷では新しい取り組みとして、訪問美容を始めました。手探りで始めたプロジェクトでしたが、近隣の訪問美容事務所の方々にご協力いただき、月に1度の訪問美容がやっと軌道に乗り始め、沢山のご利用者様に利用していただいております。車椅子のご利用者様にも安心して施術をうけていただいております、仕上がりにとっても満足していただいております。

プロジェクトを始めた当初より、計画していたお部屋の改装計画も終わり、殺風景だった浴室の前室がとても素敵な空間に生まれ変わりました。(増田 あい)



クリスマス会



今年度も各フロアでクリスマス会を実施しました。それぞれ職員が工夫をしてお利用者様に楽しんでいただけるよう準備しました。

午前中1階はクリスマスモチーフでビンゴを行い、2階は職員によるあわてんぼうのサンタクロースの劇を鑑賞し一緒に盛り上がりました。

午後は皆さんでケーキを召し上がり、サンタクロースからプレゼントをもらいました。1日クリスマスムードで楽しく過ごしました。(市川 頌乃)





2025年 がスタートしました。

同時に2024年の元日を襲った能登半島地震から1年が経過したことにもなります。当時の映像等をメディアで見るにつけ、対岸の火事と捉えるのではなくいつでも起こりうる災害と捉え、命を守るという防災の原点にいま一度、立ち返らなければならないという感情に包まれた記憶が蘇ります。

防災と共に我々ボワ・アルモニーでは昨年新たな目標を設定し取り組み始めました。

一つは、質の高い支援を職員全体で考え実行するということ。

例えば・・・

- ・どのような支援をしたか
- ・支援した後の反応、効果はどうか
- ・支援に至った理由や根拠はどうか
- ・支援を受けるご利用者の気持ちや感じ方はどうか

など、支援内容についてきちんと説明できる（検証できる）ことが、支援員としての大きな役割でもあり、また重要視しなければ質を保つことに繋がらないと考えています。

今後もご利用者一人一人のケース検討会を行い、チームで共有し、検証し、試行を重ね支援の質の向上に取り組んでまいります。

もう一つは、生活面、作業面の自立度向上です。

特に作業面において、職員による前準備や機械操作等が半分以上を占めるなど、ご利用者だけで取り組む自立度の低さが課題でした。試行錯誤を重ね、ご利用者のみで取り組む工程を大幅に増やし、自立度向上に繋がっています。失敗することも多々ありますが、時間を掛け、ご利用者のストレスを排除しながら取り組んでいます。また同時にQOL向上を目指し、生活面の向上にも繋がられるように取り組んでまいります。

2025年も安全、安心、豊かな時間に尽力して参ります。

引き続き、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

(津田 雄大)

よろしくお願ひします



起震車体験をしました。



2024年の始まりが能登半島地震だったことは、記憶に新しく、映像を見る度にいたたまれない気持ちになります。メディアの映像を見ていると画面越しなので、どうしても身近には感じられないことが現状です。「災害はどこでも起こる、対岸の火事ではない」という気持ちをしっかりと、持ってもらうために、地震災害を身をもって体験していただきたく、消防署様のお力も借り、起震車体験をおこないました。最大震度7はどのような揺れでその時どのように対処すべきなのかをご利用者、職員、一部児童支援部の児童の方も参加し体験しました。

11月の初冬に差し掛かる寒い日でしたが、いざ起震車にエンジンがかかり、揺れていく様子を観て、一様に不安な表情を浮かべるご利用者が多く観られました。リビングを想定した車両の後部に設けられた場所に乗り込みスタート。テーブルの脚をしっかり持って体勢を整えるよう、担当者の方から説明を受け、揺れが少しずつ大きくなって最後に震度7の揺れに差し掛かった際は、必死になって、身を守る姿が印象的でした。乗ることを拒まれるご利用者も数名いましたが、職員同行で乗車するなどして全員が体験することができました。終わった後は、緊張と安心感が同時に表出するような表情を浮かべる方も多く観られ、その後はいつもと変わらない様子で過ごされており、職員も安心して取り組みました。

その後は、特別に消防車への乗車が許可されると、我先にと乗り込むご利用者も多く観られ不安が喜びに変わった瞬間も見ることができました。

今回、地震等の災害の怖さの一部を知ったことにより、有事の際、どのように身を守らなければならないかを理解した貴重な体験でした。 (津田 雄大)



児童支援部

ボワ・コンサール

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします！

毎週工作に取り組んでいるコンサールですが、12月はクリスマスに関連した工作やクッキングの活動を行いました。

クリスマスカードを作った際は、サンタさんにプレゼントのお願いを書くと児童もいました。

クリスマスのランタン制作では、カラーセロファンを貼る作業に苦戦する児童も多くいましたが、最後まで頑張つて取り組み、どの作品もとても可愛くてきていました。ご家庭からは、「帰宅後、すぐに見せてくれました！」「飾りましたー」など嬉しいご報告も頂きました。

クッキングではデコレーションケーキを作りました。バームクーヘンに生クリームをつけて、アポロやマーブルチョコをトッピングして食べました。「おいしいー」と子どもたちの嬉しそうな表情がみられました。

今年も子どもたちと楽しみながら様々な活動ができるよう努めていきたいと思ひます。

最後になりますが、赤い羽根共同募金の期間中には皆様より多くの方に協力していただき、誠にありがとうございました。（渡邊 千春）



ボワ・エール

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

ボワ・エールでは12月〜1月にかけては季節行事が盛りだくさんとなっております。12月はクリスマスの制作に始まり、デコレーションケーキのクッキング、新年のカレンダー作り、年が明けて1月にはお正月飾り制作と、週替わりで色々な活動を行いながら、季節を感じられる設定をしています。「もうすぐクリスマスだよ」「12月は『よいお年を』です！」「プレゼント何もらおうかなー」と2月らしい会話をしながらみんなで制作をしました。

年が明けるといよいよ次の学年、進路に向けての動きが本格的になってまいります。新しい環境に向けて不安になることもあるとは思いますが、エールでは皆様が楽しく、安心した環境で過ごしていけるようにしていきたいと思ひます。

また、赤い羽根共同募金の期間中には、たくさんの方にご協力をいただきました。誠にありがとうございました。（上田 哲明）





初の試み！青空ガーデンバーベキュー&温泉デトックス



9月16日(月・祝)、ミニヨンとひなたの合同レクリエーションを実施しました。内容は図師町にある「竹一ガーデンバーベキュー場」でのバーベキューと、市立室内プール内の「町田桜の湯」での入浴を楽しむというものです。

まだまだ残暑の厳しい日でしたが、何日も前から心待ちにされていたご利用者たちは、大汗をかきながら積極的に準備をし、焼きあがるのをそわそわしながら待っていました。そして、待ちに待ったごちそうができあがると、熱々の肉や野菜、フランクフルトなどを夢中で口に運び、あちらこちらから「おいしい！」という声が聞かれました。

かいた汗と日頃の疲れは桜の湯できれいに流れ落ちましたが、素敵な思い出はいつまでも残っているようです。今でも時々、この日の話を楽しそうにされるご利用者もいらっしゃいます。また、行きたいですね。



(清水 雅也)



2024年を振り返り～2025年は～

より良い環境でご利用者と「平凡な日常の幸せ」を共有し、四季の変化を楽しみながら生活していただきたいと思えます。健康第一で、今年もよろしくお祈りします。

(柿崎 裕子)



ボワ・すみれ福祉会後援会



寄付金事業報告と作業委託費贈呈式が執り行われました

12月19日(木)、花の家会議室にて、寄付金事業報告、作業委託謝礼の贈呈式が執り行われました。

田部井理事長からは、すでに9月18日(水)に寄付金50万と社会貢献寄付金10万を贈呈(9月29日法人広報記載)いたしております寄付金事業報告としまして、花の家と花の郷の送迎車の購入費として充当させて頂きましたと報告があり、感謝のお言葉を頂きました。

また、高橋会長からは、後援会資料や季節販売の申込書等のホチキス止めや折り込み作業、発送作業などをお願いしているご利用者の代表者に作業委託費の謝礼をお渡し致しました。来年も頑張ってお仕事をしてくれると笑顔で約束して頂きました。

2018年(平成30年)から行っておりますこの様な取り組みが出来ますのも、後援会にご協力くださいます皆様のおかげです。

会員の皆様に心より感謝いたしますとともに、来年度以降もこの取り組みを継続できますようご協力のほど、よろしくお願いいたします。



会員を募集しております

新規会員の方も継続の方も年間を通して受け付けておりますので、後援会事務局までお申し出ください。

(窓口は法人本部事務所松浦までご連絡ください)

(後援会 事務局)



発行 社会福祉法人ボワ・すみれ福祉会 理事長 田部井 眞

東京都町田市下小山田町 3267-2

TEL : 042-797-6044(代) / FAX : 042-797-4824

E-mail : hananoie@poem.ocn.ne.jp

<https://bowasumire.jp/>

